

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区

校番27

福山市立駅家南中学校

最終更新日

2018年(平成30年)10月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション力 協調性・思いやり
○現状に適応した「めざす子ども像」が掲げられており取組の評価指標も定量化されている。 ○学校情報の地域への発信、地域人材の積極的活用は効果的である。 ○質の高い教育のために学校、保護者、地域の連携が必要であるので引き続き強化してほしい。	○話し合う活動はできているが、友達の意見と自分の意見を比較し、自分の考えを深める段階まで達していない。 ○地域行事への参加率や住んでいる地域が好きな児童生徒の割合は高い。 ○学習規律は定着しているが、生活習慣や家庭学習に課題のある児童生徒が固定している。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒
		中学校区として統一した取組等	話す・書く(アウトプット)場面を意図的に設定した授業を行う 保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる 駅家南中学校区スタンダードで生活習慣・家庭学習を定着させる

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)					問題解決力		コミュニケーション力		協調性		リーダーシップ	
未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に貢献できるよう、励ましながら鍛える。		めざす子ども像												
学校教育目標				問題解決		コミュニケーション		協調性		リーダーシップ				
自立して 社会に貢献できる 生徒の育成				1年		多様な視点から物事を考えることができる		自分の考えや思いを理由を明確にして伝えることができる		相手の立場が尊重できる		与えられた自らの役割を果たすことができる		
				2年		自ら課題を発見し課題解決のための自分の考えを持つことができる		事実と意見を区別して相手に分かりやすく伝えることができる		互いに関わりながら相手の立場を考えた行動ができる		自己の役割を自覚して責任を果たすことができる		
現 状				3年		望ましい解決策を導き出すことができる		自分の考えや思いを論理的に相手に分かりやすく伝えることができる		互いに関わりながらその場に合った行動ができる		率先して集団や社会の中で役割を果たすことができる		
＜生徒＞ ・授業で友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりする生徒の割合は高い。 ・理由を明らかにして、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる生徒の割合は低い。 ・課題意識をもって授業を受けている生徒の割合が低い。 ＜授業＞ 教師が一方向的に教え込み、生徒は静かに板書するという「講義調」だけの授業から、習得させた知識や技能を活用して、設定した課題を解決するために思考させる場面を意識して授業に取り入れようと試行錯誤している。		研究		教科等 主題・内容等		道徳								
						自ら考え学ぶ授業の創造 ～生徒の学びを促す“しかけ”の工夫を通して～								
		めざす授業の姿		先生は単元のねらいを明確に持ち、知識・技能をしっかりと教えている 生徒は課題意識をもってじっくり考え、はっきり表現している										

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力セ達成 評価評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ達成 評価評価	総合 評価評価	改善方策	
2	全国学力・学 習状況調査の 平均正答率に おける全国平 均以上の項目 数を 4/4 と する。			基礎・基本の定着 と思考力・表現力 の育成	・「学びの地図」を 作成する。	年間の単元や題材か ら、学びの地図を5つ 以上作成する。	・全教員が 1 学 期の間に各自 2 つ以上作成し、 研修した。	3	3	・2 学期以降で 3 つ以上作成する。 (2 学期に 2 つ、 3 学期に 1 つ) ・継続して取り組 む。 ・今後学力調査を 実施する。				
2	体力・運動能 力調査におけ る県平均以上 の項目数を 48/48 とす る。			体力向上の持続 (昨年度36／ 48の項目で県 平均を上回った) と向上	・体育や部活動の 中で、弱点に特 化したトレー ニング及び補 強運動を継続 して行う。	全国平均を上回る項 目を40／48以上 にする。	・全国平均を上 回る項目は 33 ／48である。 男女ともに持久 力、握力に課題が ある。	3	2	・体育の授業や部 活動の時間に、課 題のある項目(握 力・持久力)につ いて、継続して取 り組む。				
2	駅家南中学校 区スタンダー ド「5つの約 束」の達成率 を 90%以上 とする。			基本的生活習慣 と規範意識の 育成 「5つの約束」の 認知度の向上	・教職員による指 導と生徒会活動 を連動させる。 ・生徒、保護者に 行事等におい て周知する	挨拶85% 時間90% 認知度70%	・生徒の肯定的回 答割合は挨拶 87.5%、時間 92.2%である。 ・保護者の認知度 は 64.8%であ る。	3	3	・生徒会活動とし ても継続して計 画的に取り組ま せる。 ・懇談や行事など 機会をとらえて 周知する。 ・学校だよりの一 角に「5つの約 束」を常時示す。				
2	自分が住んで いる地域が好 きな児童生徒 を 85%以上 にする			地域との積極的 な連携	・全ての教科でふ るさと学習を 実施する。 ・地域を調べる、 体験する、貢献 する総合的学 習を実施する	ふるさと学習の 計画の活用実施率 90% 「自分の住んでいる 地域のことが好きで す」80%	・9月末までに実 施する予定であ った活用実施率は 72.7%である。 ・生徒の肯定的回 答割合は、81.8% である。	3	3	・今後活用を予定 している教科等 は、カリキュラ ム・マップを確認 し、実施する。 ・生徒の活動に対 して、肯定的な評 価をする。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。